

## 安寧空間創製システムにおける包括的評価システムの研究 Study of WBSCS: Well-Being Space Creation System

沢 恒雄<sup>‡</sup>  
Tsuneo Sawa

### 1. 序章

人類 100 億人を養う地球資源はない。糸川英雄博士の組織工学研究所での成果である提言や環境哲学の視点からも客観的な予測である。が、ほとんどの国、種・部族、家庭、個人に至るまで具体的な行動に踏み出していない。十数年来、環境・社会・経済のトリレンマの緩解・艦戒を研究してきた。

人類にとって核兵器廃絶の最重要課題以上の重要課題にも拘らず小手先の矮小な課題にすり替えた議論が国連等でされてきた。

### 2. 環境・社会・経済のトリレンマの緩解 [1~4]

**課題**; 人類 100 億人を養う地球資源は無い。

**緩解策**; 解決法はなく、緩解策として先延ばし策のみ  
**二大対策**; 人口増加率逡減と工業化率逡減を人類滅亡の時期を先送りする方略とした。

**目標・目的**; 当初は、「モデル」と定義したが整理するために「戦略」とした。即ち、二大戦略「**生物温存戦略と言語文化温存戦略**」とした。システムの実態としてモデルが構成要素であり、あえて願望・目標という意味を含めて定義した。[1][2]

**方法・方略**; 環境・社会・経済のトリレンマ現象が原因の源泉にある。そこで日本の良質な社会倫理観を日本・日本語・日本文化を一体としてモデルベースシステムを構築し、デジタル・ディプロマシーで世界に発信・啓蒙・理解・認知・政策実践指導と教育によりトリレンマを緩解させる。以下、幸福度を前提とした包括的評価とトリレンマ緩解法について述べる。

### 3. 安寧空間創製システム(WBSCS)の概要 [4]

世界日本学による安寧空間創製システム構築法を WBSC (Well-Being Space Creation System) と呼称する。

安寧空間創製システム概念構築は、開発経済・国際日本・国際経済・地政学・海上権力史・文明論・認知学・社会倫理・哲学などの複合領域である。

WBSCS の最終目標は、餓死者、銃火器、依存症的欲望の縮退、人格破壊薬物の廃絶と厳密な使用制限である。

WBSCS は、二大戦略、二大対策の安寧度評価尺度を定めて、適切なレベルによる政策や計画に反映させる。数年、数十年のレベルで巧みなバランスを保ち、負のスパイラルに落ち込まないような制御が必須である。粘り強く「安寧空間創製システム」の啓蒙・政策・実践の定着を目指す。

後開発国に対する資金援助だけでは上層部の搾取が多く、実効的に利用されることが少ない。資金援助だけでは、餓死者が減らない部族や国のリーダーの意

識を変え得るような教育を長期間継続し実践していくことが必要である。良質な社会倫理の醸成のための教育には長期間かかる。適確な幸福度に直結する施策と実践が援助の大前提となる。

### 4. WBSCS の管理運用

WBSCS 総合的知財管理 [知財蓄積・管理・発信・実践] は、「個≒人間・生物」や「種≒国・人種・文化・言語」の連鎖の断裂は、進化し得ない「種」の崩壊を招く可能性が大きい。世界日本モデルの知財化による COE と IT DIPLOMACY 加えて日本の試練(負の遺産)を知財化して世界に発信する。

世界日本学モデルの運用管理の実態は、人、家族、組織、部族、種、国、世界の活動を既存の ODA や JICA や国連の報告書から不備な点を是正する。安寧空間構築のための目標・目的である二大戦略および二大対策の人口増加率逡減と成長率・工業化率逡減を活動実績から評価する。

その結果、地球資源との対比で 2 対策の適正値を予測して、次のサイクルの施策を世界的に反映させる。PDCA サイクルを継続して全組織の地球資源消費量が人類滅亡の破断点を超えて負のスパイラルに落ち込まないようにすることが人類の温存に直結している。

### 5. WBSCS の包括的評価システムの概念

システムの評価は、社会システムの多重・多層性の特徴からも人類共通の標準的な評価は困難である。

21 世紀になりトリレンマの傾向は、経済が突出して環境の破壊と社会の格差が著しい。経済成長の指向が強すぎて壊滅的環境破壊と絶望的格差社会を起こしてきた。人類の傲慢で強度な欲望依存症が原因で現在の惨状に至った。環境・社会・経済のトリレンマを緩解・艦戒の方略として人口増加と経済成長の比率を逡減する方法を提唱している。国連での MDIs や SDGs 活動では無力であった。

日本文化・文明の特質を世界に啓蒙・理解・認識・実践・評価・政策補正のサイクルで経済と社会の歪を補正しようとする目論見である。個人から国レベルまでその意識で生き・活き・逝くサイクルが唯一の方法だと確信する。そのため包括的な評価尺度として「幸福度」を組織と個人で決め、それに合致した政策立案を地球規模で抑制する度合いを決め実践・評価・修正の周期でトリレンマの緩解で人類滅亡の時期を先送りすることが可能になる。

国連の持続可能な開発目標 SDGs の実践に WBSCS を活用することが安寧空間創製の方法論である。国連の諸政策は、総花的で裕福な国が極貧国に資金面の援

<sup>‡</sup> 遊工学研究所, YUUKOUGKU.Institute

助する方略が現状である。曾野綾子氏が、アフリカなどの惨状を指摘している。SDGsの体制面で、「安寧空間創製システム:WBSCS」は、強力なツールとなりうる。特に知識の伝達や獲得は有効性を発揮する。

WBSCSの運用管理で長期的な教育・指導による社会倫理観の醸成と定着化を目指す。格差は、組織の活動方針を確定する際意思で可変である。組織間の格差は、現実問題として埋めることは不可能である。21世になってからの過度なグローバリズムは、価値交換の道具である金銭が商品となり歪な社会システムを創ってしまった。脳科学の研究成果を依存症抑圧に活用することも有効であろう。

#### 6. WBSCSの評価尺度と緩解の逓減率算定法 図3, 4

各種報告書からトリレンマ緩解の尺度変換；国連や日本の外務省から各種の報告書がでていますが、それらから人口増加率と工業化率の計算は、理論が確立していないので困難である。規範モデルができて初回の運用実績で学習できる。

トリレンマの緩解のための二大戦略と二大対策で人口増加と工業化率の逓減率を制御し、緩解の方略とするための評価項目を設定した。人口増加率と工業化率を制御することで人類の滅亡を先延ばしすることが期待できる。

必要な地球資源を計算する方略を考察する。関連する項目は、図4に示した評価項目の大半は、国連、外務省、JAICA、JBIC、FASID、大学、シンクタンクなどの報告書から得られる基礎データを収集する。

また、ODA評価と行政評価の相違は[5]にあるように評価法が異なり、単純な算術計算では、直ちに算出できない項目がある。WBSCSでは、これらの各種報告書から量的で質的な分析を必要とする。

管理されるデータの種類を下記に示す。

1. 各種報告書から直ちに確定する項目
2. 関連項目の関連を考慮しながら算出可能性を探索できる項目
3. WBSCSの複数サイクルの実践で経験値として得られる項目

例えば、人口に対する残存地球資源量の把握は、トリレンマのバランスを考慮しながら探索していく方法による。また、危険度や幸福度は、工業的視点からは、かなりの社会の成熟した領域では利用できるが、想定外の範囲をどのように取り組むかによって、計算結果が異なってくる。糸川博士の商品弾性率なども最終値の算出には有効な方法だろう。

現象的には、何らかの臨界点を超えて死滅にいたる領域を予め設定するのは困難である。要素還元論の思考法と包括的な視点からの思考が必要となろう。

自然科学的思考と社会科学的思想が融合した方式を必要とする。ビッグデータ処理や深層学習および会話分析から得られる質的データも有効な技法だ。

また、多重多層な社会システムの分析法には、サービシサイエンスやAHPや「幸福度連関法」(沢の提案)や昨今はブームのAIも有効であろう。ただし、説明のできない手法には信頼度に不安が残る。

#### 7. 結言

安寧空間を保持していく基本には、無駄使いをしない、過剰な依存症を抑止する、餓死者の出ないように人口を抑え、どこへでも工業化を志向しない。一帯一路は、トレレンマ緩解と真逆の政策であろう。

人間は、考えるという道具を手にした時から生きることを悩まねばならない特性を身に着けてしまった。価値観を転換し、人類の滅亡の時期を可能な限り先延ばしする方略を提案したが、実践に持ち込むのは、本来は政治の分担だが現在の資金援助だけの政治では実現不可能である。個人でも可能な事を立証したい。

脳科学の研究は、「心」を対象を向けている。思考の大きなツールとなりうるが、緒に就いたばかりである。幸福度のまとめ方などに貢献できることを期待したい。

思想や思考の原点としての哲学が、この数百年の科学技術の進展で学問の確たる位置が置換された。哲学の復権を含めて特に社会倫理の在り方の研究は、影が薄い。復権を指向し各領域に哲学を据える姿勢も必要である。応用哲学の提唱がされているが幸福論の統合化も必須であり今後の課題とする。

#### 引用文献・参照文献

- [1] 沢恒雄：二大モデルによるトリレンマの艦戒(緩解)の研究, 第14回情報科学技術フォーラム(FIT2015), 4Q-6
- [2] 沢恒雄：世界日本学の提唱, 第14回情報科学技術フォーラム(FIT2015), 4Q-7
- [3] 沢恒雄:世界日本学モデルベースシステムによる安寧空間構築の研究, 情報処理学会MPS研究会, 2016
- [4] 沢恒雄：世界日本学による安寧空間創製の研究(安寧空間創製システム:WBSCSの研究), 第15回情報科学技術フォーラム(FIT2016), N-012
- [5] 山谷精志：政策評価, ミネルヴァ書房, P218
- [6] 松井孝典, 地球学:長寿社会の文明論, ケヅ, 1998  
松井孝則, 地球倫理へ, 岩波書店, 1995
- [7] 糸川英夫, 人類生存の大法則, 徳間書店, 1995
- [8] 応用哲学を学ぶ人のために, 戸田山和久・出口康夫, 世界思想社, 2011
- [9] Henry Scott Stokes, 「世界の中の日本」大東亜戦争は日本が勝った, ハート出版, 2017/4
- [10] George H. Nash, Freedom Betrayed Herbert Hoover's Secret History of the Second World War and Its Aftermath, 【米国で数十年封印されていた】

評価法 ↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 量的評価, 質的評価</li> <li>* パフォーマンス・メジャメント</li> <li>* 費用便益分析</li> <li>* 参加型評価</li> <li>* 政策評価自治体評価</li> <li>* NGO 評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学校評価</li> <li>* 大学評価</li> <li>* 保健福祉評価</li> <li>* 環境評価</li> <li>* 開発援助評価</li> <li>* ジェンダー評価</li> </ul>
包括化法 ↓	サービス・サイエンス, AHP, ANP, 組織学習, 人工知能・・・等で統合化	
幸福度連関	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幸福度から政策・施策へ反映</li> <li>2. 人口増加率, 工業化率の査定</li> <li>3. 生物人類の温存への反映監査</li> <li>4. 文化言語の温存の反映監査</li> <li>5. 世界システムとして緩解率の検証</li> </ol>	

第0図 WBCS の評価機能 (システム)

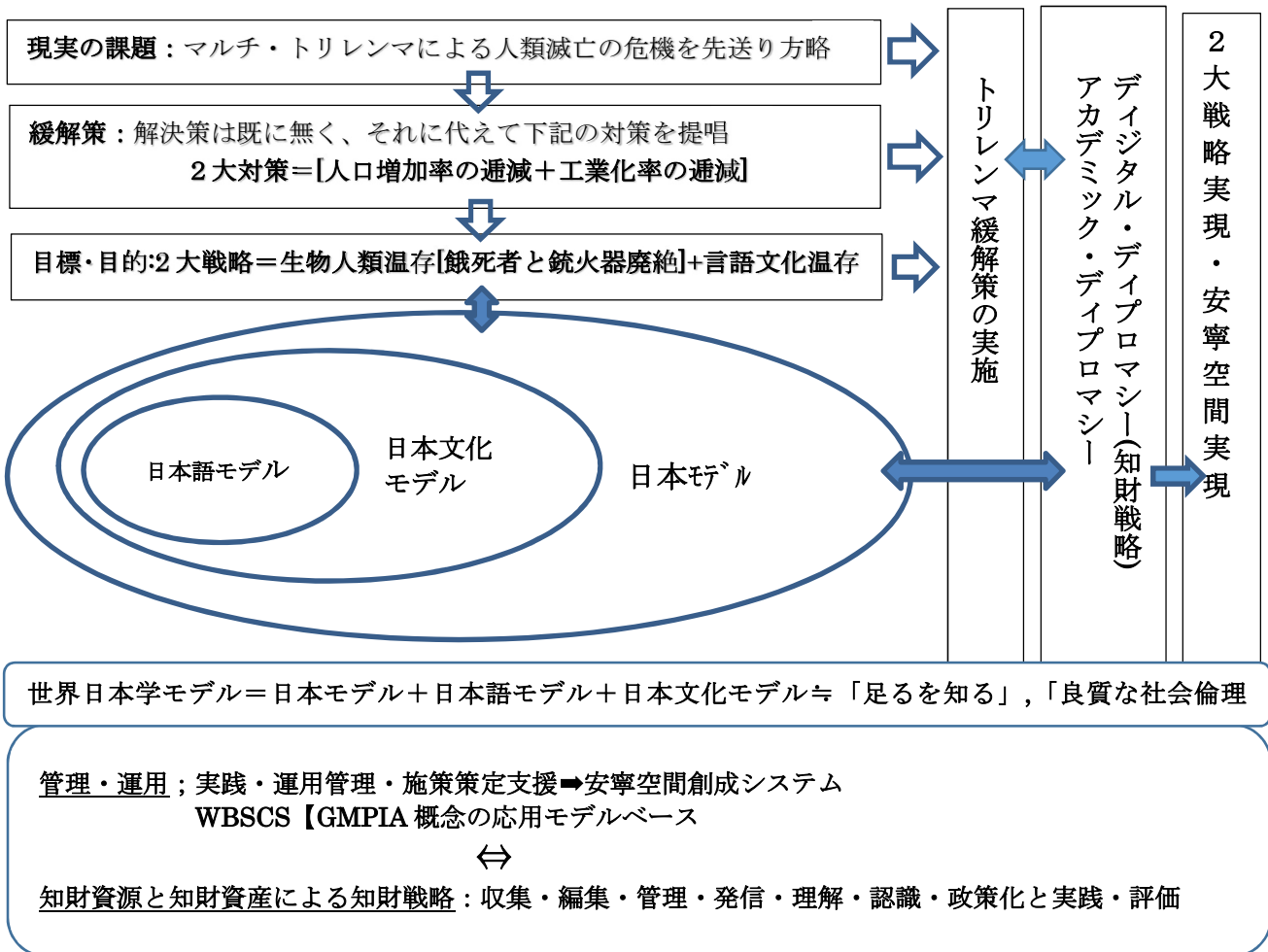


図1 世界日本学(日本・日本語・日本文化)モデルによる安寧空間創製システム創製概念

レベル	主要タイトル	内容； 源典や説明事項	記事； 方法や源典
日本文化	文化研究の知財 LOD	総研大に累積している知財など	デジタル・ディプロマシー
	源氏物語, 和歌集	万葉集などの超長期のロングセラー	原本, 現代語版
	LOD	廉価版の NGO 的な日本文化の広報活動	デジタル・ディプロマシー
日本語	汎用専門日本語教育システム	総合的な辞書体系を具備する。用語辞書, メタ辞書	分類語彙
	経営日本語教育システム	基幹モデルの応用で汎用専門教育システムへ拡張	沢恒雄が開発したシステム
	LOD	日本語は言霊であり, 言語帝国主義を排除する	デジタル・ディプロマシー
日本	古代から明治初期までの歴史	日本二千六百年史：大川周明 日本の魂, 主権, 国體や万世一系の歴史まで	縄文文化から自然風土と海に育まれた文化
	近現代の歴史 1	国破れてマッカーサー；西鋭夫, フーバー大統領回想録等, 公文書公開資料で事実を把握して総括	回想録では日米戦争の全責任は狂人、ルーズベルトである。
	近現代の歴史 2 LOD	日本の魂・主権・国體を回復, 敗戦後の脱自虐史観	デジタル・ディプロマシー
	その他 (主権・国體・魂の回復) 歴史主体に国體, 主権の総括を行う。	日本の良質な倫理や蓄積された先人の遺産 【伝説から連綿と続く歴史・日本の魂・国體 国體の本義 呉 PASS 出版	総合的な大和の回復を 10 年程度かけて実践し, 後世に託すことが最重要である。
	安寧空間創成システム (WBSCS) ; GMPIA で定期的に評価の予測と結果の監査を提供し, 政策・施策化へ誘導・勧告を実施		

図 2 安寧空間創製システム概念と世界日本学【日本・日本語・日本語】モデルベースの概要

1単位周期	Plan (Input)	Do, (Process)	Check (Output)	Action (一)
既存の構成単位の実活動	人・組織・団体・種・部族・国の目標と目的に応じた戦略・施策の実践で資源量を確定する計画行為等	実践・活動	国連, 核国の行政機関, ODA, JICA など報告書, 各種報告書	各組織における次サイクルの反映,
GMPIA による安寧空間創製システム (WBSCS)	統合的辞書, モデルベースシステムの規範モデル開発(最初の実践サイクルが規範モデルとなる)	モデルの精緻化, 欠損情報の探索と収集	各種報告書を分析し GMPIA の各要素の評価を実施, 現状を把握し確定, 残存資源量の把握, 消滅危機率の予測, する。	次サイクルの実行計画に反映させる指針を明示, 新規に獲得された知識・知恵をモデルベースへ反映させる。

図 3 安寧空間創成システム概要, 既存システムとの連携 [PDCA サイクルで組織活動の質・量の改善・改良・改革]

大項目	主要項目	要素とデータの種類	制御項目の定義	収集・分析対象	残存資源量	幸福度	危険度
二大戦略	生物・人類 温存戦略	生物	絶滅種の数	同左	—	—	◎
		人類	人口増加率・通減率と傾向	同左	◎	◎	◎
	言語・文化 温存戦略	言語	消滅言語数と傾向	同左	—	○	◎
		文化	消滅の危機にある文化領域と存続の可否や対策の纏め	同左	—	○	◎
二大対策	人口増加率	増加率と通減率の検証	対前期サイクル比, 人口の増加率	所要資源把握	◎	◎	◎
	工業化率, 経済成長率 の通減	GDP による成長率を仮設定し, 運用段階で厳密な項目を学習する。	対前期結果との比 GDP と新規の尺度設定 商品弾性理論 ([7]-P.170) 等から政策・施策へ反映	所要資源の把握, 依存症の傾向は 商品弾性値が有効である。	◎	◎	◎

図 4 安寧空間創製システムの定義・要素と評価